



大 学 生 訪 韓 団
団 員 募 集

公益財団法人日韓文化交流基金は、毎年、日韓政府事業の一環として、日韓両国の大学生を対象とした相互派遣事業を実施しております。

本事業の訪韓プログラムは、①日本国外務省と大韓国外交部の共同事業として実施されるもの、②当基金と韓国政府教育部傘下国立国際教育院との共同事業として実施されるもの、③当基金が独自に企画・実施するものに大別されます。

いずれの団も日本の大学生を代表して、韓国の様々な文化や歴史を学び、大学訪問やホームステイといった韓国の方々との交流を通じて、韓国社会や日韓関係に対する理解を深めるとともに、日本の各分野についての魅力はもちろん、より深い相互理解の促進につながるような情報発信を積極的にしていただきます。

日韓両国の未来に向けた友好・協力関係の構築を目指す本事業の趣旨に賛同し、参加して下さる大学生の皆さんを広く募集いたします。

たくさんのご応募をお待ちしております。

～訪韓中のスケジュール例～

- 出発前日 事前説明会、東京都内前泊
- 1日目 日本出国
- 2日目 ソウル市内視察
- 3日目 大学訪問（ソウル市内または近郊）
- 4日目 ソウル市内視察、伝統文化体験など
※南北軍事境界線付近の見学が含まれる場合もあります。
- 5日目 ホームステイ実施地域へ移動、ホームステイ
- 6日目 ホームステイ
- 7日目 地方へ移動
- 8日目 地方視察、大学訪問など
- 9日目 地方視察
- 10日目 日本帰国

ホームステイ

伝統文化体験

大学訪問

DMZ視察

地方視察



～訪韓団参加者の声～

初めての訪韓でしたが、旅行では絶対に知り得なかった日韓関係を知ることができ、本当に良い経験になりました。また、このプログラムを通じて出会った方々、特に韓国の先生や大学生たちからは、韓国という国とどのように向き合っていくべきかを考える機会をいただきました。そして何より団員の皆さんからは、本当に多くのことを学びました。それぞれ異なるバックグラウンドを持つ大学生とのプログラムは本当に刺激になりました。
(小樽商科大学1年・女性)

現地の大学生と交流した際に、彼らが日本との未来を前向きに考えていることを知り、うれしくなりました。今回の訪韓を通じて学んだことを日本各地の方々に伝えるために、全国紙の新聞に投書するなど、私ができるアクションをたくさん起こして、日韓両国がさらに良好な関係を築いていけるようにしていきたいです。SNSを活用して現地の大学生たちと今後も連絡を取り合い、さらに仲を深めながら、互いに理解し合えるようになりたいと思います。
(金沢大学1年・女性)

現地の大学生とのディスカッションを通じて、自分が思っていたよりも韓国社会が複雑で、ダイナミックな動きを見せることを学びました。大変濃密なプログラムで、新たな学びや発見が数多くありました。このプログラムに参加したことで、韓国に交換留学し、韓国社会についてより理解を深めたいと考えようになりました。帰国後も今回知り合った現地の大学生たちとの交流を続けていきたいと思っています。
(東京大学1年・男性)

もともと韓国の音楽(K-POP)が好きで関心がありましたが、自分の関心からの知識量と実際に韓国に行ってみた時に得た知識の定着度は全く違うものを感じました。韓国の方々は根本的に反日感情があるのではないかと感じていましたが、実際に現地の大学生と接して日本に対する純粋な気持ちを知り、うれしく思いました。今回のプログラムを通じて、本当に旅行では味わうことのできない体験を多くさせていただきました。ありがとうございました。
(日本女子大学2年・女性)

今回のプログラムを通じて、様々な場面で多くの韓国の方々と交流することができました。メディアなどから得る韓国のイメージとは全く異なり、日本に対して興味を持ち、優しく接してくださる韓国の方々の本当の姿を知ることができました。訪韓前までは、日韓の人と人との関係を良くしていきたいと思っていましたが、訪韓後にはさらに国家間の関係を良くしていきたいと思うようになりました。若者の力でより良い関係にしていきたいです。
(鹿児島大学2年・男性)

現地の大学生との交流などを通じて、韓国の方々が本当に日本を好きで、興味を持ってくださっていることを聞いた時に、韓国に親しみを感じました。メディアなどから韓国という国を見るとすべてが良いイメージにはなりませんが、実際に現地に住んでいる方々と接すると、間接的に得た情報からの感じ方とは異なると思います。今後も韓国の大学生と交流しながら日本の魅力を発信し、韓国についても知りたいと思います。
(近畿大学3年・女性)

プログラムを通じて、日韓関係について韓国の中でも様々な姿勢があり、一方向からのみ考えているわけではないことを知りました。日韓両国の間には、超えがたい歴史の壁があると感じていましたが、それは間違いだったと気づきました。様々な意見や考えを持つ人がいることは承知の上で、それでも日韓友好のために努めた方のことにもっと目を向けていきたいと思いました。たくさん韓国のことを知って、もっと韓国を好きになりたいです。
(福井大学3年・男性)

実際には、メディアで報道されていることと異なることを知り、韓国に対する考え方が変わりました。現地の大学生との交流を通じて同世代の生の声を聞き、日本と韓国は同じような社会問題を抱えていることを知り、両国ともに様々な問題に取り組んでいる途中なのだ実感しました。このプログラムに参加して、韓国の方々の「あたたかさ」を毎日感じました。現地の大学生と交流したことで、韓国についてより詳しく知りたいと思うようになりました。
(獨協大学4年・女性)

～ご応募の流れ～

現在募集中の
訪韓団については
こちらから →

(2019年5月現在)



Step. 1

団員募集開始

募集要項は、毎年5～6月及び10月頃に当基金ホームページに掲載いたします。

Step. 2

エントリー

当基金ホームページの応募フォームに必要事項を入力し、整理番号を取得してください。

Step. 3

自由記述文（エッセイ）作成

当基金指定のテーマに沿って、エッセイを作成してください。

Step. 4

応募

エッセイと応募必要書類をご郵送ください。

Step. 5

審査・発表

団員に決定された方は、当基金ホームページに整理番号を掲載し、担当者から個別に決定のご連絡をいたします。

<お問い合わせ先・応募書類送付先>

公益財団法人日韓文化交流基金 大学生訪韓団 担当者宛

〒101-0061 東京都千代田区神田三崎町2-21-2 ユニゾ水道橋ビル5階

TEL：03-6261-6790 FAX：03-6261-6780

E-mail：haken@ikcf.or.jp

業務時間 9：30～12：30、13：30～17：30（土日祝日を除く）